

手をつなぐ

題字 藤本利夫書

〈1988年7月9日創刊〉

発行2017年11月1日 〈毎月1日発行〉

滋賀県民主教育研究所

〒520-0052大津市朝日が丘1丁目

11-3 教育文化会館2F

TEL & FAX 077-525-5364

教育110番 077-523-3715

e-メール shiga.minken@gmail.com

HP: http://shiga-minken.jimdo.com/

振替口座番号(会費振込にご利用ください)

① ゆうちょ銀行 / 記号番号01070-5-40576

② 滋賀銀行本店営業部 / 普通口座511256

加入者(口座)名 滋賀県民主教育研究所

『わかった！の瞬間』は突然やってくる

永井淳子 (北大津高校教諭)

教員になって28年になります。どうやら「こだわり」の強い授業をしているようなので、この機会にちよつと分析してみました。

まず、漢字の成り立ちや言葉の意味を説明することが多いです。例えば、金属元素の話をする時に金偏の漢字を思いつく限り挙げてあげてもらい「仲間」ごとに分けてから始めたり、器具や物質の名称を由来から語ったりします。「理科やのに国語みたい」とよく言われます。ここで手間暇かけておくと、知的欲求が生まれやすくなると感じています。

二つめは、漢語で書き、和語で語ることにこだわっています。目では字面で理解し、耳から入る音は平易な言葉で聞きとりやすいことが一番でしょう。はっきりした発音のために訓練もしています。

三つめは、次々と疑問を抱かせるように心がけています。例えば食塩の化学式を書くとき「じゃあ砂糖は？」と尋ねられることが多いのです。ここはチャ

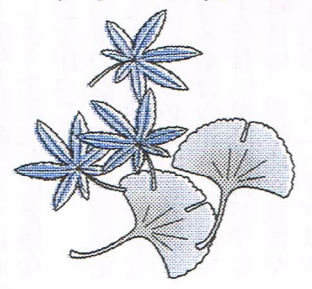
ンスなので「いい質問だね、それは先生にも簡単には書き表せないものなんだよ」とハテナをふくらませてから成分を書き上げます。すると「そんなに混じってるんや！」と食いついてくれます。ここからは無数の枝葉に分かれるので私の知らないことも聞かれます。

私はすぐ白旗をあげて「調べてきて教えてよ」と頼みます。次の授業で披露してもらおうと誰かしら更なる疑問を見つけ、続きモノになることも多々あります。水面を流れる笹舟のような迷走を私はかなり楽しんでます。

四つめは、自分の言葉で語っています。知識を伝えるだけなら誰でもいいし、極端な話、機械でも問題ないので。私が授業を担当し関わったことにより、将来サイエンス好きになってくれるとまでは期待していませんが、ほんの少し人生に潤いを増やせれば幸せなことです。語った内容は覚えてくれないなくても「何か」は残るでしょう。最後は、あきらめないことが大切だと伝えていきます。「どうせ自分なんか」

と投げやりになっているように見える。実は「変身したい」人だからなのです。

「いつか尾根にでるから、そこは見晴らしが良くて今までやってきたことの意味や価値が一気に理解できるから、そこまでは木が覆い茂る暗い湿った道を黙々と歩き続けよう。分らないことにコツコツ取り組み続けよう。『わかった！の瞬間』は突然やってくるから、途中でやめてしまわないで欲しい。」
：これを自分自身にも言い聞かせ、あと10年+α、もう少し続けるとしますか！ (ながいあつこ)



《 今月の紙面 》

- ・【巻頭言】『わかった！の瞬間』は突然やってくる/永井淳子……P1
- ・自分らしく仲間と共に生きる/安藤敦子……P2.3
- ・教育研究全国集会2017のレポートより「死刑制度について考える」/東川宏……P4.5
- ・伊賀出身の芭蕉がなぜ義仲寺に葬られているのか/山田稔……P6.7
- ・【今学校で】何なのだろうこの安堵感/榎木政俊……P8